

に ぶ ん せ き つ い  
二分脊椎



子ども達に「**勇気**、**夢**として**笑顔**」を

## にぶんせきつい 二分脊椎

せきつい  
脊椎とは、背中の骨のことです。妊娠初期に脳や脊髄  
などの中枢神経系ちゅうすうしんけいけいのもと(神経管)が作られる際に異常  
があると、脊椎の管が開いたままの状態になります。そ  
こから、脊髄せきずいが脊椎の外に出て、癒着ゆちゃくや損傷を起こしま  
す。その結果、様々な神経障害をきたします。

### 【症状・診断・治療】

二分脊椎は、大きく2つに分けられます。

- ① 顕在性二分脊椎症けんざいせい（開放性）
- ② 潜在性二分脊椎症せんざいせい



① 顕在性二分脊椎症けんざいせい（開放性） : 脊髄せきずい髄膜瘤まいまくりゅうともいわれます。



背中に神経や神経を守る膜の一部が  
露出している状態で、生まれる前に  
エコーで診断がつくことがあります  
(出生前診断)。

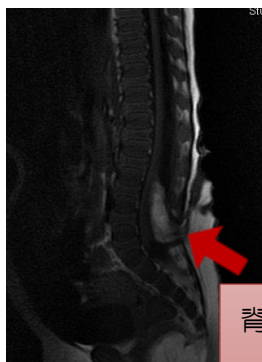


脊髄髄膜瘤のMRI :

骨盤の高さに大きな袋ができ、その中  
に脊髄が脱出してきています。

露出している部分から感染をおこす可能性があり、出生後すぐに背中の瘤の閉鎖手術が必要です。**下肢障害**に対しては、車いす・補装具等、また、**排泄障害**に対しては、導尿・摘便・浣腸・洗腸といった対処が必要となります。ほとんどのお子さんは、水頭症も合併します。

②潜在性二分脊椎症：<sup>せきすいしほうしゅ</sup>脊髄脂肪腫ともいわれます。



出生後～幼児期に

おしりの周辺の

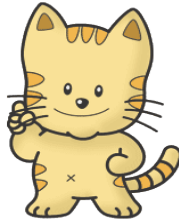
皮膚異常（隆起や凹み）でみつきり、  
診断は、エコーや MRI で行います。



脊髄脂肪腫の MRI：

皮下と脊髄が脂肪組織により、繋がっています。脊髄係留症候群といえます。

成長期になると、腰の部分で癒着した脊髄は、身長の伸びについて行けずに引き延ばされ、排泄障害や下肢のしびれ・<sup>とうつう</sup>疼痛や機能低下などの症状を起こす可能性があります。この状態を、<sup>せきすいけいりゅうしやうこうぐん</sup>脊髄係留症候群と呼びます。治療は、症状が出る前に予防的に脊髄の癒着をとる手術を行います。または、症状があるときは、その進行の予防を目的として手術を行うことがあります。



地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
大阪母子医療センター

<脳神経外科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605

2017.4.改訂